

がん集団検診の普及に取り組む

くらはら いちろう
蔵原 一郎さん (83)

読影一筋 早期発見へ全力

モノクロのX線写真に目を走らせ、素早くがんの影かどうかを見極める。

肺なら10分で1000人分のスピード

だ。「画像さえ撮れば、はつきり出

る」。早期発見は完治の鍵。50年にわ

たり県内でがん集団検診の普及に努め

てきた。開業して院長となった今も、

県総合保健協会などで週に2、3日は

検診車から届く数百人分の影を読む。

医学生時代、大病院に入院するが

ん患者のほとんどは、すでに病状が進

行していた。そして多くが、そのまま



台湾・台北市生まれ。松山赤十字病院を経て1969年、松山市東雲町に蔵原放射線科を開業。愛媛放射線科医会長などを務める。

亡くなった。今よりも危険な病気だったがんを、放射線科のベテラン読影医が次々と見つけていくのに憧れた。

「全ての治療は発見から始まる」。迷うことなく、この道を選び、1955年に読影医となった。

61年、松山赤十字病院に唯一の読影医として赴任した。現在、県内で20台ほどある検診車の第1号導入にも尽力。66年に開始し、世話人を務める月1回の勉強会は480回を数える。

県内のがん検診の先駆者で、後進の読影医と放射線技師の育成に尽力したとして、今年度の「日本対がん協会賞」を受賞した。「みんなでやるのが好きなんです。一緒にがんばってきた全員の業績」と笑う。胃がん・肺がん検診の県内受診率は40歳代でまだ約2割。「今後も検診の機会を整え、がん撲滅へ努力したい」